

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	新熱帯区における流水棲昆虫の多様性と系統関係の解明
氏名 Name	高根有斗
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	理学研究科生物科学専攻修士 1 年
渡航国 Country	ペルー共和国
渡航日程 Travel schedule	2025 年 10 月 1 日～2025 年 10 月 26 日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

2025 年 10 月 1 日から 24 日にかけて、流水棲昆虫の多様性調査のため、ペルー共和国に滞在した。南部のクスコ県パウカルタンボ、北部のカハマルカ県ラ・フロリダ並びにサン・マルティン県タラポトでの調査を行った。調査対象は山地溪流や滝に生息する双翅目昆虫のアミカ科であった。この昆虫のペルーにおける最近の知見はほとんどなく、今回の渡航では、1) ペルーのアミカ科の多様性を調べることで、2) アミカ科全体の進化史を明らかにするための南米固有系統の標本を採集することを主要な目的としていた。



図 1 アミカが豊富に見られた細流

成果 Outcome

訪問した 3 地域すべてでアミカ科昆虫を採集することができた。合計 858 個体の標本が得られた。得られた標本のほとんどは幼虫あるいは蛹であった。成虫は種名を確定するために非常に重要であるが、寿命が短く羽化時期も限られる種が多いため、幼虫・蛹に比べると採集が困難なことが多い。今回は幸運にもラ・フロリダで成虫も採集することができた。現地では顕微鏡等の設備を利用できなかったためまだ標本を精査できていないが、これらの標本には複数の種が含まれている可能性が極めて高い。



図 2 河床の石についた幼虫

今後の展望 Prospects for the future

現在標本はペルー国外輸出手続きのため手元にないが、手元に戻り次第種名の確定と分子系統解析のための実験を実施し、得られた成果は投稿論文として公表する。

まだ種名の確定していない未知のアミカ科が多く存在すると考えられる南米大陸において、その系統分類学的基盤を整備しつつ、溪流環境に高度に適応したこの特異な昆虫の進化史を解明するべく、来年度以降も調査を継続していきたいと考えている。